

兎ウイルス性出血病（RHDV2） 2019年以降の日本国内での発生状況

- 家畜伝染病予防法に基づく届出伝染病。（但し、野生のノウサギは届出義務なし。） OIE リストB疾病。
- ヨーロッパで発生した2型が現在アメリカ西南部で流行しており、野生のノウサギを含め数千匹規模で死亡と報道。
- 出血性のウイルス病で致死率90%とも言われ、感染力も強い。発症翌日に死亡するなど、経過も急である。
- **日本での発生は2002年が最後だったが、2019年から今年にかけて発生。**新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出ているさなか、入国制限中にも発生していることから国内でウイルスが既に広まっている可能性も？
- すべての事例で、ウイルスの侵入経路は不明。主に展示施設で発生している。

2019年5月 愛媛県立とべ動物園

- ふれあいのカイウサギ10匹とノウサギ1匹、計11匹死亡。
- 最初の発症は5月4日、ふれあいのウサギ。入院させたが翌5日に死亡。以後、19日までに続けて同様に10匹が連続死。（7日に1匹、8日1匹、9日3匹、10日2匹、11日1匹、14日1匹、19日1匹）
- ふれあいは12日に中止。ゴールデンウィーク中で来園者の多い時期に発生している。
- 検査結果がわかったのは28日。
- 別途入院させていたノウサギも死亡した。（感染によるものと考えられる）
- 別の部屋にいた5匹は何も起きていないが、同じ部屋にいた10匹は全て死亡した。

2019年6月 茨城県南 展示施設（非公開）

- 公園のような施設だがどこか非公開していない。
- 届出では2匹となっているが、この2匹の検査結果が出て確定するまでに多数死んでおり、計39匹死亡している。当初はコクシジウム症を疑っていたが、最終的に2匹で検査結果が出た。
- 49匹中39匹死亡、残りの12匹は場所を移して飼育。半年間検査を継続して行った。

※茨城県南で、もう1カ所、ウサギが大量死したためにふれあいを廃止した施設がある。
病名の鑑定はつかなかったと述べている。

2020年4月 千葉県 展示施設（非公開）

- 23匹届出。ウイルス型は不明。

2020年5月 千葉県 展示施設（非公開）

- 3匹届出。ウイルス型は不明。
- 千葉県の2カ所は別の施設。それぞれ別々の家畜保健衛生所の管轄区域内。
- 指導として消毒の徹底と同室のウサギの殺処分。
- 片一方は、千葉県北部であり、2019年の茨城県南に近い。新型コロナウイルスの影響でふれあいをやっていない時期に発生している。新しいウサギの導入などはなかった。診察した開業獣医師から殺処分が指導されているが実際にされたかどうかまでは確認していない。

2020年7月 栃木県 （業種も非公開）

- ばたばた死んだため家畜保健衛生所が相談を受けた。施設の詳細は教えられない。
- 届出は4匹だが、残りは全頭殺処分となった。

2020年6～7月 盛岡市動物公園

- 6月27日～7月9日にかけてキュウシュウノウサギとトウホクノウサギ計8匹が死亡。
- 5匹について、検査によりRHDV2型と確定。
- 別の場所で飼育されているふれあい用のカイウサギでは発生していない。
- ノウサギ8匹が生き残っているが、展示は中止している。検査・消毒等続ける予定。